

## 7 問題別応答分析と指導上の留意点

表右端の「%」は、各校の無作為に抽出された10%の生徒の正答率若しくは誤答率である。

### (3) 大問〔三〕国語基礎力の応答分析、考察、指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (1)	正答	ウ (月の <u>明</u> るい夜道を歩く)	93	71	56	220	73.3
	誤答	ア (縄文時代の <u>遺</u> 跡が見たい)	3	16	20	39	13.0
		エ (机上にある本は <u>私</u> のだ)	4	8	18	30	10.0
		オ (細心 <u>の</u> 注意を払う)		5	6	11	3.7
		イ (晴れな <u>の</u> に台所は暗い)					0.0

本文中の「私の住む愛知に…」における主格の格助詞「の」について、同じ用法の選択肢を選ぶ問題である。正答率は73.3%で、<a-b-c型>を示している。誤答を選択した生徒は、格助詞の用法に習熟しておらず、「の」を「が」に置き換える発想がなかったと考えられる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (2)	正答	イ (奈良県・広島県)	100	98	86	284	94.7
	誤答	ア (神奈川県・千葉県)		2	6	8	2.7
		ウ (奈良県・千葉県)			5	5	1.7
		オ (神奈川県・山梨県)			2	2	0.7
		エ (千葉県・広島県)			1	1	0.3

資料1からフランス人旅行者の特徴を読み取り適当な選択肢を選ぶ問題である。正答率は94.7%で、高位の<a-b-c型>を示している。資料1をよく比較検討すれば、容易に判断できる問題であり、一つの資料から情報を読み取ることは、どの群もよくできている。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (3)	正答	イ (日本人の生活・日本人との交流)	96	83	53	232	77.3
	誤答	ア (日本の食事)	3	17	37	57	19.0
		エ (自然, 四季, 田園風景)			7	7	2.3
		オ (温泉)			3	3	1.0
		ウ (ショッピング)	1			1	0.3

資料2からフランス人観光客の特徴を読み取り適当な選択肢を選ぶ問題である。正答率は77.3%で、<a-b-c型>を示している。誤答で最も多かったア「日本の食事」を選択した生徒は、「日本を訪れる外国人観光客全体と比べて」という部分を読み落としていると考えられる。特にc群の生徒には、丁寧に読ませる指導が必要である。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	ア (世界の動物が多く集められている東山動物園)	70	59	36	165	55.0
	誤答	ウ (日本最古といわれる天守閣をもつ国宝犬山城)	24	23	29	76	25.3
		エ (大須商店街で開催されるコスプレカーニバル)		8	17	25	8.3
		オ (名古屋の街並みを一望できる名駅の高層ビル)	4	7	12	23	7.7
		イ (大鯛が街中を練り歩く南知多町豊浜の鯛祭り)	2	3	6	11	3.7

資料1と2の情報を結びつけた上で、総合的な判断を求める問題である。正答率は55.0%であり、<a-b-c型>を示している。一つの資料から読み解く問一(2)、(3)と比べて正答率が低く、複数の資料から総合的に判断し、具体的方策を導き出す力が不足していることが分かる。今後生徒

が社会に出る上で必要不可欠な力であるため、意識して伸ばしていくことが求められる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (5)	正答	オ (フランス人が関心をもつ愛知の観光名所)	64	44	32	140	46.7
	誤答	イ (フランス人観光客に喜ばれる都市の景観)	26	42	41	109	36.3
		ウ (外国人が魅力を感じる日本の名所・旧跡)	2	6	13	21	7.0
		エ (外国人に紹介したい愛知の観光スポット)	5	5	5	15	5.0
		ア (中国人旅行者とフランス人旅行者の違い)	3	3	9	15	5.0

レポート全体からテーマを読み取る問題である。正答率は46.7%であり、<a-b-c型>を示している。誤答イを選択した生徒は、「フランス人観光客に喜ばれる」という記述のみに注目し、愛知を案内するという「テーマの設定理由」の趣旨を見落としたものと思われる。文章全体を丹念に読んで整理し、タイトルや見出し語を考えたり、要約したりといった作業をさせて、総合的に考える力を育みたい。

#### 問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ア (先生, お荷物をお持ちしましょうか)	61	51	40	152	50.7
	誤答	エ (先生, ~お越しになられませんか)	19	14	11	44	14.7
		ウ (先生, 父が~とおっしゃっていました)	5	13	24	42	14.0
		イ (先生, こちらでお待ちして下さい)	8	10	14	32	10.7
		オ (先生, 昼食はもういただかれましたか)	6	12	11	29	9.7

敬語の適切な用法を選ぶ問題である。正答率は50.7%で、<a-b-c型>を示している。b-c群には、尊敬語と謙譲語を、敬意の対象者及び動作の主体に合わせて使い分けることのできない生徒が多い。

#### 問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	エ (エコロジー)	68	60	40	168	56.0
	誤答	イ (エコノミー)	29	33	32	94	31.3
		ウ (テクノロジー)	3	5	12	20	6.7
		ア (リサイクル)		2	13	15	5.0
		オ (エネルギー)			3	3	1.0

外来語の意味を問う問題である。正答率は56.0%で、<a-b-c型>を示している。31.3%の生徒がイを選択しているが、漠然とした印象や雰囲気外来語を捉えているのであろう。

#### 問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	オ (~おもむろに~切符を取り出した)	20	23	27	70	23.3
	誤答	イ (彼は <u>やにわ</u> に起き上がり, ~)	45	41	35	121	40.3
		エ (~寒さも <u>ようやく</u> 緩んできた)	16	12	18	46	15.3
		ア (~ <u>にわか</u> に天候が変化した)	10	18	11	39	13.0
		ウ (~ <u>とみに</u> 体力に自信がなくなり, ~)	9	6	9	24	8.0

「ある動作が時間的な余裕を持ってなされるさま」を表す語を問う問題である。正答率は23.3%で、全設問中最も低い。低位の<a b c型>を示しており、読書経験の不足がうかがわれる。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	イ (ことであった)	98	90	54	242	80.7
	誤答	オ (からであった)	1	5	20	26	8.7
		エ (のであった)		3	10	13	4.3
		ウ (ようであった)		1	11	12	4.0
		ア (ものであった)	1	1	5	7	2.3

適切な文末の表現について問う問題である。正答率は80.7%で、<a b - c型>を示している。全体としては長い修飾句に惑わされず、「事実」を受ける表現を選択できていた。c群の中にオを選んだ生徒が多かったのは、文の構造への意識が希薄であったためと考えられる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (1)	正答	撤 去	61	42	17	120	40.0
	誤答	徹 去	10	15	8	33	11.0
		撤 □ (□の部分の類字間違い)	5	9	10	24	8.0
		□ 去 (□の部分の類字間違い)	8	6	5	19	6.3
		( その他 )	6	14	9	29	9.7
		( 無 答 )	10	14	51	75	25.0

「てっきょ (撤去)」を漢字に改める問題である。正答率は40.0%であり、<a - b - c型>を示している。無答が多かったのは、「撤去」という言葉自体を知らない生徒が多いからではないかと考えられる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (2)	正答	局 地	43	36	26	105	35.0
	誤答	極 地	46	48	26	120	40.0
		□ 地 (□の部分の類字間違い)	4	5	11	20	6.7
		( その他 )	4	5	7	16	5.3
		( 無 答 )	3	6	30	39	13.0

「きょくち (局地)」を漢字に改める問題である。正答率は35.0%であり、低位の<a b c型>を示している。過去に平成5年度 (正答率12.7%) と平成15年度 (同20.0%) にも出題されている。正答率は向上しているが、どの群においても同音異義語の区別ができない生徒が多い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (3)	正答	導 (かれる)	100	97	85	282	94.0
	誤答	導の字形間違い		3	4	7	2.3
		( その他 )			2	2	0.7
		( 無 答 )			9	9	3.0

「みちび (導) かれる」を漢字に改める問題である。正答率は94.0%であり、高位の<a b c型>を

示している。字形の間違いも少なく、よくできていた。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (4)	正答	そぼく	100	100	89	289	96.3
	誤答	そ □ (朴の読み間違い)			5	5	1.7
		(その他)			6	6	2.0

「素朴(そぼく)」の読みを答える問題である。正答率は96.3%であり、高位の<a b c型>を示している。c群では「朴」の読み間違いがいくつかあったが、よくできていた。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	げねつ	70	50	32	152	50.7
	誤答	かいねつ	26	46	56	128	42.7
		□ねつ(解の読み間違い)	4	2	8	14	4.7
		(その他)			2	2	0.7
		(無答)			2	2	4

「解熱(げねつ)」の読みを答える問題である。正答率は50.7%であり、<a - b - c型>を示している。過去に平成7年度(正答率42.3%)と平成14年度(同53.0%)にも出題されている。日常よく耳にする言葉ではあるが、「かいねつ」がb群で半数に迫り、c群で逆転する。「解(げ)」の読みを高校での学習を通じて定着させたい。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	たずさ(える)	96	84	47	227	75.7
	誤答	そな(える)	1	6	14	21	7.0
		そ(える)		1	12	13	4.3
		かか(える)	2	4	6	12	4.0
		(その他)	1	3	16	20	6.7
		(無答)			2	5	7

「携(たずさ)える」の読みを答える問題である。正答率は75.7%であり、<a b - c型>を示している。訓読みも併せて練習させたい。

### <指導上の留意点>

実態及び問題点
現代日本では、核家族化の進行や地域社会の結びつきの希薄化などによって、異なる世代との交流が少なくなっている。それに伴い、敬語を使用する機会も減っているのが現状である。また、敬語自体も簡略化されてきているとの言葉も聞かれる一方、過剰に敬語を用いている例も見られる。
指導における改善の具体策
敬語使用の場面を設定し、ロールプレイを行うことによって、敬意対象者の明確化と対象者との距離の取り方を意識させ、適切な敬語使用を学習させたい。
<b>学習活動</b> (授業2時間程度)
① 敬語の形式には添加形式(「お~になる」など)と、交替形式(「召し上がる」など)があり、

機能の面では上下・親疎・内外関係を示すことを知る。

- ② 例文を与え、敬語表現を用いた適切な形に改めさせ、ロールプレイ形式で発表させる。発表を聞いて、敬語使用の適否について話し合う。